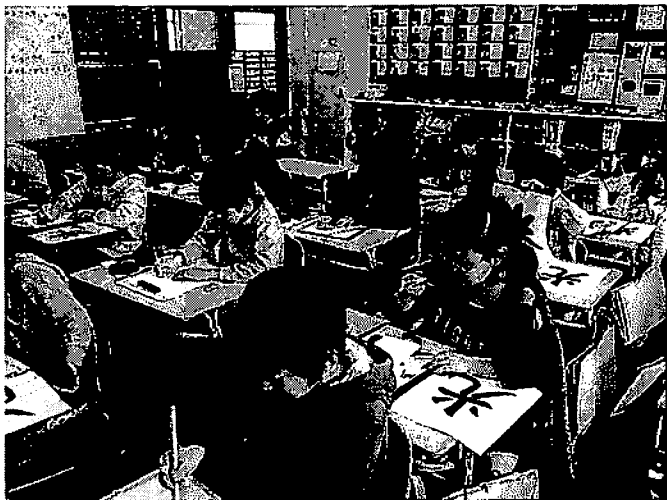
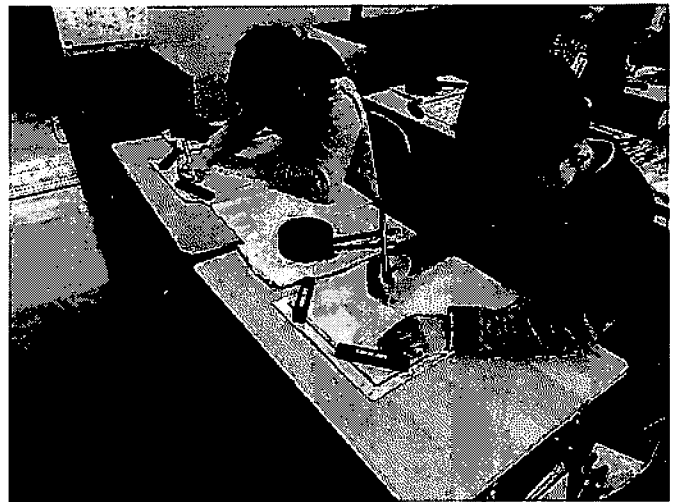


研究主題

生きる力を育む書写教育のあり方

—基礎基本の習得と日常書写力向上をめざして—



令和元年8月27日（火）

第二部会

成田市立加良部小学校 嶋野 真里

成田市立玉造中学校 勝田 真由美

目次

I	研究主題	1
II	主題設定の理由	1
III	研究仮説	2
IV	研究内容	2
	（1）研究方法	2
	（2）仮説1についての授業実践1（小学校）	3
	（3）仮説2についての実践（小学校）	7
	（4）仮説1についての授業実践2（中学校）	9
	（5）仮説2についての実践（中学校）	12
V	成果と課題	13

資料編

I 研究主題

生きる力を育む書写教育のあり方
—基礎基本の習得と日常書写力向上をめざして—

II 主題設定の理由

新学習指導要領では、国語科の目標を次のように示している。

言葉による味方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次の通り育成することを目指す。

- (1) 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 日常における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

書写については、小・中学校ともに国語科の「知識及び技能の内容」の(3)に位置付けられており、各教科等の学習活動や日常生活に生かすことのできる書写の能力を育成することが重要とされている。

具体的には、小学校では文字を書く基礎になる姿勢、鉛筆や筆の持ち方、点画や一文字の書き方から始め、目的に応じた書き方へと指導し、日常生活や学習に生かせる書写能力を育成することとしている。

さらに、中学書写では、楷書や行書の特徴をふまえ、書体を選択して書くことができるようになることもめざしている。

『生きる力』の育成のために『伝統と文化の尊重』が強調されていることは周知の通りである。日本の伝統と文化の原点である『文字』を正しく書く書写の基礎・基本を身に付けることが大切であることは言うまでもない。現代社会の状況を考えた時、文字を正しく書く機会は非常に減ってきてはいる。しかし、書写の授業のみならず各教科が連携を取り合って、文字を書くことを楽しめるような環境を作っていくのも学校教育の大切な役割だと考える。

さらに、自分の課題をしっかりとって主体的に学び、他者との話し合い活動を通して、自己評価・相互評価をして振り返り、新たな課題を見いだせるような活動が必要であると考ええる。

その活動の中から児童生徒の文字に対する関心を深め、文字に対する意識の向上を図っていくことは、書写力の日常化につながり、さらに日本の文字文化を継承していく上でも重要であると考ええる。そこで、これから、基礎・基本の習得と日常の書写力の向上が『生きる力』を育むことにつながると考え、本主題を設定した。

Ⅲ 研究仮説

仮説１：基準を明確にすることにより、字形を整えて書こうとする意欲が生まれ、児童生徒が主体的に取り組むことができるであろう。

児童・生徒が主体的に学習するということは、何が自分の課題なのかを一人ひとりが見つけられることが大切である。そのためには、児童・生徒が自身の文字の実態を知り課題解決のための方法を自ら見つけ、学習に取り組んでいく必要があると考える。

手立て

- 学習の進め方の統一（小学校では、加良部スタンダードの活用）
- 児童・生徒自身による実態把握
- 学習課題を設定（共通課題・個人課題） ○練習用紙の個人作成

仮説２：他教科・領域との連携を図り、書写の学習を活用する場面を設けることで書写への意欲が高まり、日常生活に生かすことができるであろう。

書写の学習で身に付けた力を日常に生かすために、表現する場を設ける。その手段として、他教科・領域との関連を図ったり、学校における諸活動に生かしたりする場を設けていく。

手立て

<小学校>

- 他教科・領域との関連を意識した年間計画の作成 ○活用できるノート指導
- 相手を意識した掲示物作成の指導

<中学校>

- 特別活動における書写学習の活用 ○書写学習を生かした美術科の指導

Ⅳ 研究内容

(1) 研究方法

- 全ての学年、全ての単元において、授業形態の統一を図ることで、児童・生徒が主体的に学ぶことができるようにする。
- 文字を書く際には、相手を意識して書くことの必要性を継続して指導していく。
- 年度初めの４月と年度終わりの３月に同じアンケートをとり、児童・生徒の変容を見取る。

(2) 仮説1についての授業実践1 (小学校)

第3学年 国語科書写学習指導案

指導者 成田市立加良部小学校 嶋野 真里

1 単元名 学習のまとめ『光』

2 単元について

(1) 単元観

本単元では、今まで学習した内容を生かして『光』を書く。『光』には、「横画」「縦画」「はらい」「はね」「曲がり」「点」といった、これまで学習してきた基本点画の大体の要素が含まれている。そのため、これまでの学習を振り返り、そこから自分のめあてを選ぶことで、課題を焦点化して取り組むことができる題材となっている。

しかし、「曲がり」から「はね」に向かう筆使いについては、初めての扱いとなるので、今まで学習した「曲がり」「はね」の書き方を生かして書くよう支援する。

(2) 児童の実態 (男子16名 女子12名 計28名)

児童は、今年度より初めて毛筆の学習を始め、意欲的に学習に取り組んでいる。道具の準備や片付けも、4月の頃に比べ、手際よくできるようになってきている。また、始筆・送筆・終筆は、「トン、スー、トン」の言葉を使って、筆運びのリズムを多くの児童が身に付けてきた。しかし、墨汁を付ける量や筆の持ち方、筆圧に注意して整った文字を書くことが難しい児童や一文字一文字を書くことに一生懸命で、これまでに学んだことを意識して題材を書くことまでに至っていない児童もいる。また、筆を立てて持つことや、ひじを上げて持つことが身に付いていない児童もいるので、正しい持ち方を掲示しておくとともに、机間指導の際に声をかけることで常に意識できるようにしている。

また、授業の様子を見ると、書くことに慣れて速さも増してきていることがうかがえる。しかし、ノートの文字を見ると、速く正確に書ける児童もいれば、正確に書くことへの意識が低くなり、文字の乱れが見え始めている児童もいる。

(3) 指導観

毛筆学習においても、他教科の学習過程と同様に自らが課題をもち、その解決を図りながら学習を進めることを大切にしていく。全学習材とも同じ授業の進め方で行うことで、思考力や表現力をはたらかせて主体的に取り組むようにしたい。

まず導入では、手本なしで書いた作品と手本とを見比べて違いを児童がを見つけ、自ら課題をもたせるようにする。その際、既習の筆使いが『光』の文字に生かせないかを尋ねることで、授業で学んだことを他の書く活動にも活用する力を身に付けさせていく。

次に、練習する段階では、半紙は8分割折りにし、かご文字を取り入れて練習をさせる。そうすることで、どの児童でも、始筆の位置や終筆の位置、文字の大きさなどに気を付けて

書くことができると考える。

学びを振り返る段階においては、ペアの友達とまとめ書きを見合う時間をとることで、お互いの進歩や努力したところを認め合えるようにする。

このように毎時間同じように学習を進めていくことで、生涯にわたって使用する文字の基礎・基本を理解させ、文字を正しく整えて書く能力や文字に対する関心を深めさせていきたいと考える。そして、毛筆で学習したことをペンや鉛筆で書くときに生かすことができる児童を育てていきたい。

3 単元の目標

<関心・意欲・態度>

これまで学習したことを生かして自分のめあてを選び、進んで書こうとしている。

<思考・判断>

これまで学習したことを生かして、自分のめあてを適切に選ぶことができる。

<技能>

これまで学習したことを生かして、筆使いに気を付けて字形を整えて書くことができる。

<知識・理解>

これまでに学習した筆使いや字形について、理解することができる。

<書写の日常化>

常に字形に気を付けて書こうとする意識をもつことができる。

4 指導計画（2時間扱い）

時間	学習活動	評価規準
1 (本時)	○3年生で学んだ毛筆の筆使いを想起して、「光」を書く。	これまで学習してきたことを生かして、自分のめあてを選び、書くことができる。 【思考・判断（発言・作品票）】
1	○自分のめあてに沿って、「光」を書く。	これまでに学習した筆使いや字形について、理解することができる。 【知識・理解（作品）】

5 本時の指導（1／2）

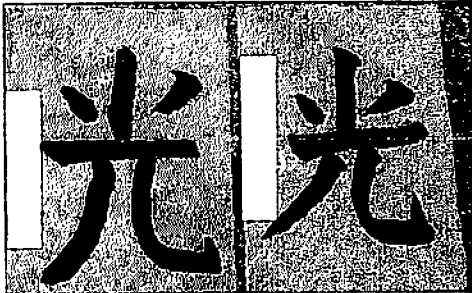
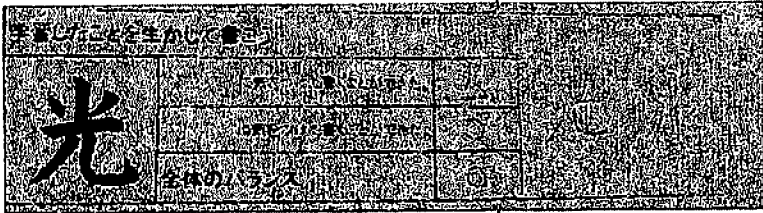
（1）目標

<思考・判断>

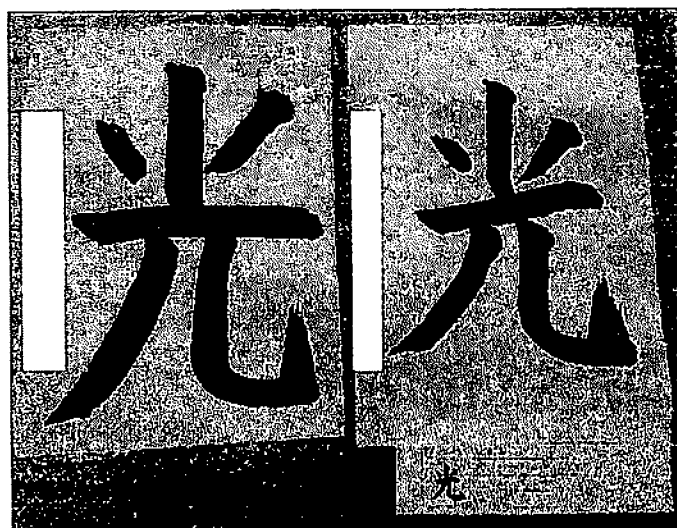
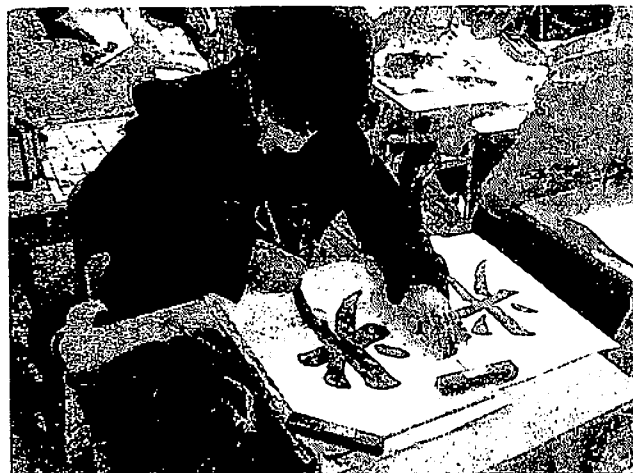
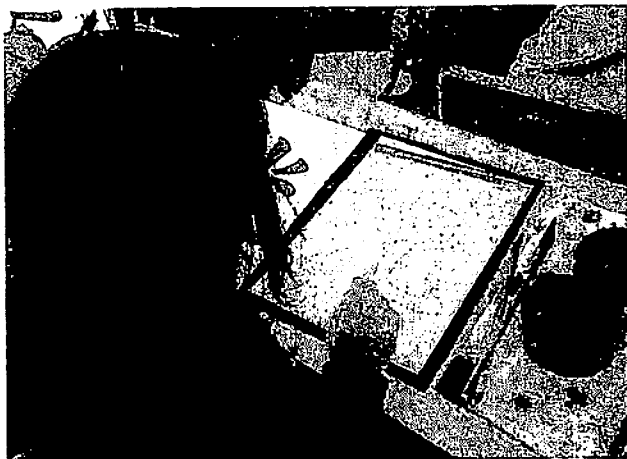
これまで学習してきたことを生かして、自分のめあてを選び、書くことができる。

（2）展開

時配	学習活動と活動内容	○指導・支援 ◎評価	資料
6	1 「光」の試し書きをする。	○手本を見ないで書かせる。	
5	2 試し書きと手本を比べ、基準確認	○これまでに習ってきた点画を想起さ	手本

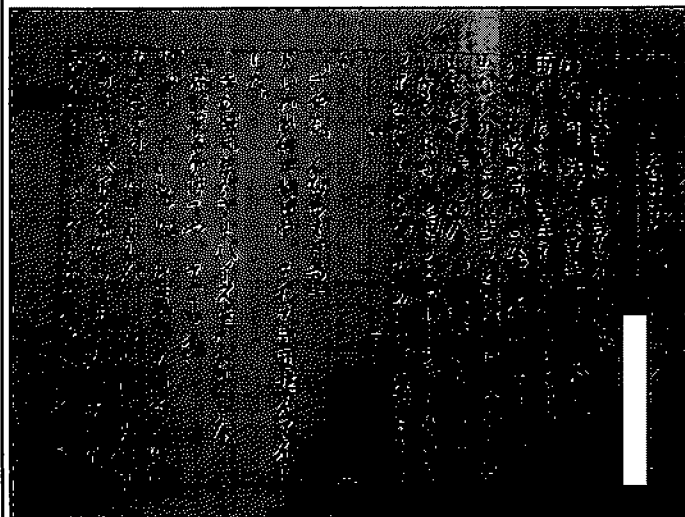
	をする。	せ, 「光」の書くポイントを見付けさせる。	
2	3 学習問題を立てる。		
	これまで学習してきたことを生かして書こう。		
5	4 筆使いを確認する。	○教師の演示から, ポイントをつかませる。	水 書 板
10	5 練習をする。	○かご文字を作り, 練習させる。	
			
15	6 「光」をまとめ書きし, 試し書きと比べて評価する。	○自分の書いた作品を基準に沿って自己評価する。 ○友達に作品を見てもらい, 基準に沿って相互評価をする。 ◎これまで学習してきたことを生かして, 自分のめあてを選ぶことができたか。 【思考・判断(発言・作品票)】	自 己 評 価 カ ー ド
			
			
2	7 次時の予告をする。		

<授業の様子>

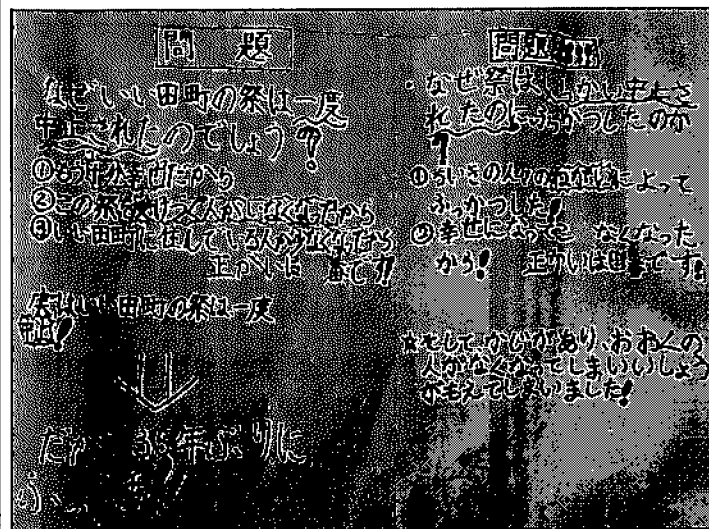
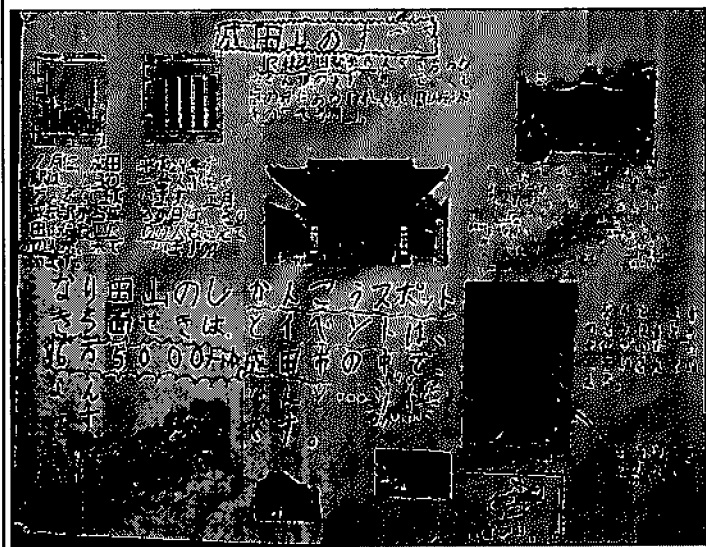


7

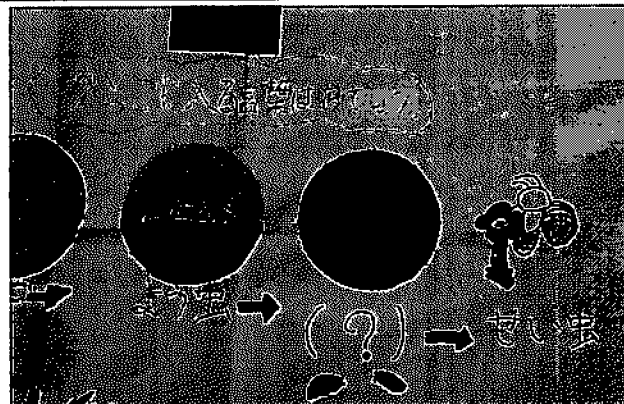
国語科との関連



総合的な学習の時間との関連



理科との関連



(4) 仮説1についての授業実践2（中学校）

第1学年 国語科書写学習指導案

指導者 成田市立玉造中学校 勝田 真由美

1. 単元名 行書で書いてみよう『栄光』

2. 単元について

(1) 単元観

書写は国語の学習の中における「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に位置し、本単元はその(2)のア「漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して読みやすく速く書くこと」を学ぶものである。本時は前時までに行った行書の学習を受けて、「栄光」を書く。楷書と行書の違いを学び、行書の点画の特徴や筆使いの特徴を学習した後に、形の変化を学ぶための単元である。

(2) 生徒の実態

この学年の生徒は入学当初から、文字を美しく整えて書くことに対して興味関心を持っていた。学校全体で取り組んでいる「掲示物の文字を美しく整えて書くこと」について、意識して取り組んでいる姿もあり、校外学習のまとめとして行う新聞作りなどの文字はとても丁寧に書かれている。入学時のアンケート結果からわかることは、今は文字を書くことが苦手であっても、これから先社会に出た時には、美しく整った文字を書ける人になりたいという気持ちがよくわかる結果であった。

本校では、書写の学習を他教科や各種行事に生かすことにも力を入れており、校舎内に毛筆で書かれた掲示物が多く見られたり、生徒の作品があらゆる場所に展示されていたりする。そして、その文字が年を経るごとにだんだん整ってきているのがわかる。そのような環境に生徒達を置くことで、書写に対する意識も高くなっていくのだということがわかる意識調査であったように思う。

(3) 指導観

ここでは行書で「栄光」を書く。これまでの課題に比べ、「栄」も「光」も形の変化が大きく、筆使いや書くスピード、つなげ方が難しい課題である。試し書きをしてみるとその難しさに改めて気づく生徒も多いであろう。そこで、試書と手本を丁寧に比較してみて、生徒達に自己批評をさせる。自らの力で課題を見つけ、それを解決する力をつけるためである。楷書の学習時から始めた、かご文字や骨文字の作成を通して、行書の書き方を身につけ、正しく整った文字で行書を速く書けるように、指導していきたい。

3 単元の目標

<関心・意欲・態度>

遺されてきた文字や日常生活の文字から、行書とはどんな書体かを理解しようとしている。

<思考・判断>

これまで学習したことを生かして、自分のめあてを適切に選ぶことができる。

<技能>

これまで学習したことを生かして、筆使いに気を付けて字形を整えて書くことができる。

<知識・理解>

楷書と行書の違いから、行書の点画の特徴などを理解することができる。

<書写の日常化>

さまざまな活字が活字デザイナーの手書きをもとに作られていることを理解し職業観を意識することができる。

4 指導計画（6時間扱い）

時間	学習活動	評価規準
1	○楷書と行書の違いを学ぶ。 ○行書の特徴を理解した上で、行書の筆使いを学ぶ。	楷書と行書の違いから、行書の点画の特徴などを理解することができる。 【知識・理解（発言）】
1	○点画の連続と形の変化を理解して行書で「大木」を練習する。	これまで学習したことを生かして、筆使いに気を付けて字形を整えて書くことができる。 【技能（作品）】
2 (本時1/2)	○点画の連続と形の変化を理解して行書で「栄光」を練習する。 ○自己課題を決定し、自分で練習用紙を作ることで課題を解決する。	これまで学習したことを生かして、筆使いに気を付けて字形を整えて書くことができる。 【思考・判断（作品）】
1	○点画の連続と省略の仕方を理解して「平和」を練習する。	これまで学習したことを生かして、筆使いに気を付けて字形を整えて書くことができる。 【技能（作品）】
1	○硬筆で行書の練習をするとともに、身の周りにある行書の文字に関心をもつ。	残されてきた文字や日常生活の文字から、行書とはどんな書体かを理解しようとしている。 【関心・意欲・態度（発言）】 さまざまな活字が活字デザイナーの手書きをもとに作られていることを理解し職業観を意識することができる。 【書写の日常化（発言・作品）】

5 本時の指導（3／6）

（1）目標

<思考・判断>

自己課題を決定し、自分で練習用紙を作ることで課題を解決することができる。

（2）展開

時配	学習活動と活動内容	○指導・支援 ◎評価	資料
1	1 前時の学習を振り返る。		
2	2 本時の目標を確認する。		
	練習用紙の作成を通して、行書の基本を理解し、「栄光」を書こう。		
5	3 黒板に掲げた「栄光」の行書体を見て、楷書との違いを確認する。	○「栄光」の行書体を提示し、「点画の連続や点画の形の変化」について気づかせる。	行書体の手本
10	4 手本を見て試書する。		
5	5 手本と自分の作品を比較し、各自の課題を作る。	○字形、点画の向き、つなげ方などに注目できるように助言する。 ◎これまで学習してきたことを生かして、自分のめあてを選ぶことができたか。 【思考・判断（発言・作品票）】	
			
10	6 課題解決のための練習用紙を作成する。	○かご文字、骨文字を黒板に提示し、各自で作成する。	かご文字と骨文字の見本
			
7	7 各自が作成した練習用紙で練習を行う。	○練習用紙の文字を塗り絵するような書き方はさせないようにする。	

5	8	本時の清書を行う。	○試書の段階の課題を意識して書かせる。	評価カード
5	9	試書と清書を見比べ、良くなった点と直さなければならない点とを見つけ、評価カードに記入する。	○評価カードの記入と共に、次時の課題を明確にさせる。	

(5) 仮説2についての実践(中学校)

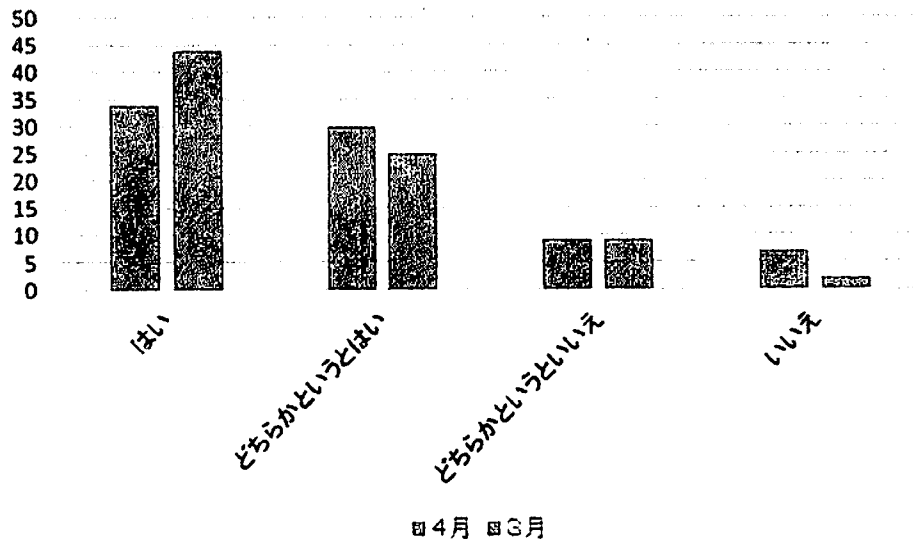
書写の学習を取り入れた活動(中学校)

活動場面	書写の学習の生かし方
生徒会活動 ・郡大会壮行会 ・ベストノート コンクール	・各部活動ごとに今年度の大会、コンクールに向けた目標を毛筆で書き、全体で発表したり、校内に掲示したりする。 ・家庭学習ノートの使い方や記入の仕方について、見やすく整った文字で書いている生徒を表彰する。
学校行事 ①校外学習 ②合唱コンクール	①校外学習や修学旅行のまとめ学習時、新聞作りに書写の学習を生かした書き方をする。 ②合唱曲の紹介のめくりを毛筆で書く。
学級活動	学級で決めた学級目標を毛筆で書き、学級に掲示する。
他教科との関連 ・美術科	・美術科の学習—卒業する3年生が、これからの目標を毛筆で書き、そこに絵を入れたり、篆刻作品を入れたりする。

V 成果と課題

<実態調査> 平成30年度加良部小学校3年生 80名実施

①書写の授業は好きですか。



②そう答えた理由は何ですか。

うまくかけたらすごくうれしかったせいがあるから

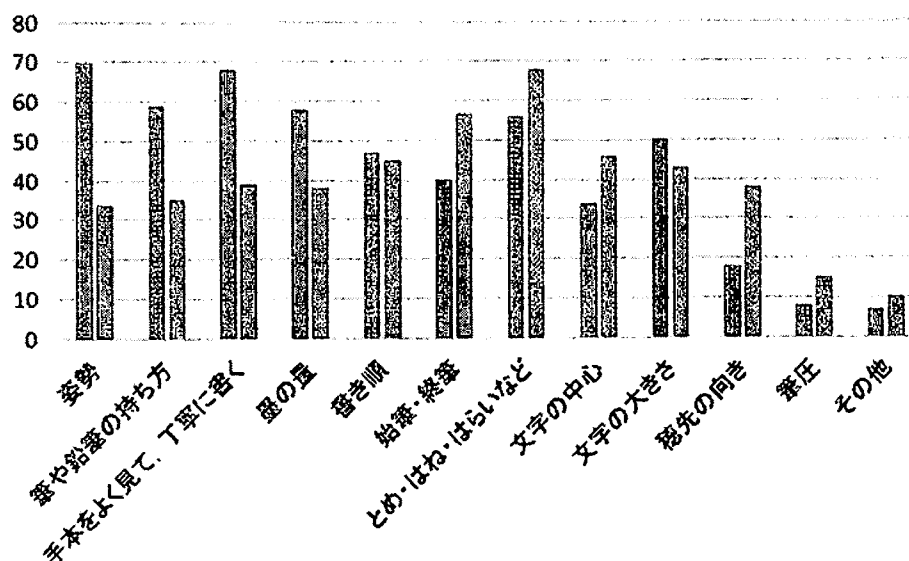
書いているときがワクワクして楽しいから。

書写の練習をしていると自分がまえより字がきれいになっていくようでそれがうれしかったからです。

きれいに書けるうれしいからです。もし、うまくかけなかったら、どこをなおしたらいいかを考えるの楽しいから。

書写の勉強がほかのことにもいかせるからです。

③文字を書く時、特に気を付けていることは何ですか。（複数回答可）



■4月 ■3月

※その他（4月）

- ・立ち歩かない 2名
- ・手の位置
- ・こぼさない
- ・消しゴムで丁寧に消す
- ・間違えない
- ・筆がパサパサにならないようにする

各1名

（3月）

- ・文字のつながり 6名
- ・名前のバランス 4名

④書写を学ぶことで役に立ったことはありますか。

字のつながりやしせいが役に立った

字がキレイにかけられるようにいつしかできてきた。

がきしゅんといもいきしてくるようになった。

字がきれいにはかけるようになった。

1年で字が2年生よりも上手になったこと。

始筆、終筆を上手にかけるようになり、字がきれいになった。

⑤1年間の書写の授業を終えて、できるようになったことや楽しかったことは何ですか。

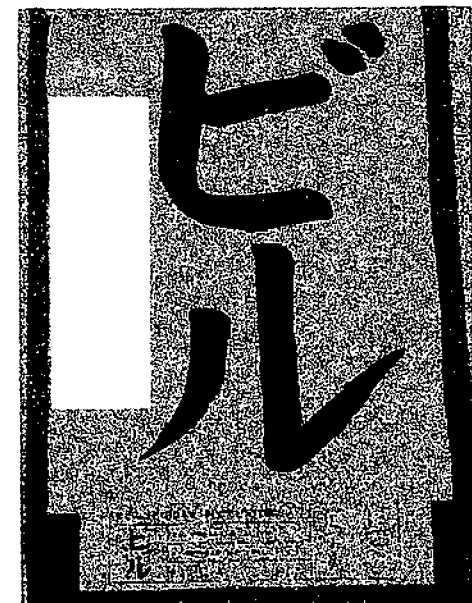
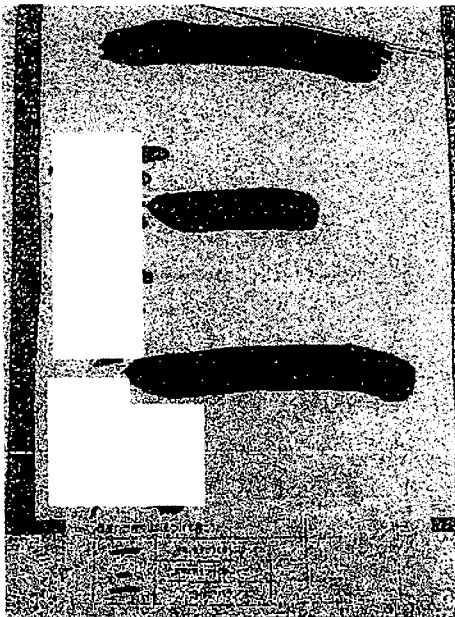
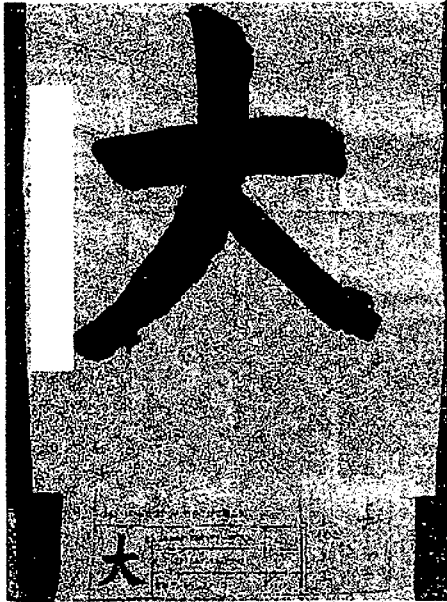
文字をいねいに書くのが
好きになった

えんぴつで字がうまく書けるようになった。

字のつながりや字のきれいさを気にするようになった。

もっと字をかきたくなりました。

< 1年間の作品の比較 >



<実態調査> 平成30年度玉造中学校1年生 99名実施

①文字を書くのは好きですか。

大好き－13人 好き－21人 普通－19人
あまり好きではない－35人 嫌い－11人

②文字を書く時に気を付けているのはどのようなことですか。

- ・整った字形で書くこと
- ・正しい書き順で書くこと
- ・文字の大きさを考えること
- ・読みやすく書くこと
- ・目的にあった筆記用具で書くこと
- ・誤字脱字がないようにすること
- ・丁寧に書くこと
- ・はねや払いに気を付けて書くこと

③毛筆と硬筆とではどちらが好きですか。

毛筆－36人 硬筆－41人 両方好き－8人 両方嫌い－14人

→その理由を書きなさい。

《毛筆について》

- 好きな点
- ・墨の香りがよい。
 - ・筆で書く時の感触がよい。
 - ・落ち着いた雰囲気がい。
 - ・書いた後の線が美しい。
- 嫌いな点
- ・用具を出すのが面倒だ。
 - ・汚してしまうと後がたいへんである。
 - ・上手に書けない。
 - ・筆の動きがつかみにくい。

《硬筆について》

- 好きな点
- ・用具の出し入れが容易だ。
 - ・どんなに書いても汚れにくい。
 - ・間違えたり、形が良くないと思ったら消せる。
 - ・形が整っているかどうかのわかりにくいので、安心できる。
- 嫌いな点
- ・鉛筆で書く時は力を入れるので、疲れる。

④書写の学習はどのようなところに生きてくるとおもいますか。

- ・色々な場面で自分の名前を書く時。
- ・大切な事柄を素早くメモしなければならない時。
- ・手書きで掲示物などを作る時。

⑤書写の時間に学びたいことはどんなことですか。

- ・形の整った文字を書くための方法。
- ・速く文字を書くための方法。
- ・仮名文字と漢字の大きさや配置のバランスのとりかた。
- ・筆圧が弱いので、それをしっかりと書く方法。
- ・美しく行書を書くための方法。

< 1年後のアンケート調査> 平成30年度玉造中学校1年生 99名実施

① 文字を書くのは好きですか。

大好き－15人 好き－24人 普通－18人
あまり好きではない－32人 嫌い－10人

② 文字を書く時に気を付けているのはどのようなことですか。

- ・誤字脱字がないようにすること
- ・掲示したときに見やすいように書くこと
- ・大きく書くこと
- ・丁寧に書くこと
- ・濃く書くこと
- ・整った字形で書くこと
- ・正しい書き順で書くこと

③書写の学習はどのようなところに生きてくと思いますか。

- ・普段、授業ノートをとる時
- ・手紙などを人に出す時
- ・手書きで掲示物などを作る時
- ・色々な場面で自分の文章を書く時
- ・大切な事柄を素早くメモしなければならない時

④書写の時間に学びたいことはどんなことですか。

- ・自分の名前をきれいに形よく書く方法
- ・形の整った文字を書くための方法
- ・美しく行書を書くための方法
- ・筆圧が弱いので、それをしっかりと書く方法
- ・仮名文字と漢字の大きさや配置のバランスのとりかた
- ・速く文字を書くための方法

考察（○成果 ▲課題）

<小学校>

- 基準を明確にしたことで、児童1人ひとりがめあてを意識して書くことができた。
- 学習の進め方を全ての学習材で統一したことで、児童が主体的に学習を進めることができた。
- かご文字を使った練習を行うことで、文字の大きさのバランスがとれたり、始筆、終筆の位置を意識して書いたりすることができた。
- 書写の学習で習ったことを生かして丁寧に文字を書こうとする児童が増え、ノートや廊下掲示の字がきれいになった。
- 年間計画表の変更や加良部スタンダードを作成したことから、全ての教員が他教科・領域との関連を意識したり、書写の授業の組み立て方を学んだりすることができた。

- ▲試書から学習課題設定をするのが難しい児童とそうでない児童との個人差が出てしまったので、これからも書くポイントを意識した授業を継続的に行っていく。
- ▲数値で測れない部分もあり、この手立てが児童にとって有効であったかが検証しきれない面があった。

<中学校>

- 書写で学んだことを、他教科や領域の活動に生かすことができるようになった。
 - 相手を意識して、文字の大きさや文字の濃さ、用いる用具などを工夫する生徒が増えた。
 - 作成する場面によって、楷書と行書の使い分けをする生徒が出てきた。
 - 国語科の教員のみならず、他教科の教員の中にも文字意識への高まりが見られた。
- ▲書写の授業時数の取り方がまとめ取りになってしまったので、継続的に授業を行っていくようにする必要があると感じた。

資料編

(小学校編)

第6学年 国語科書写学習指導案

指導者 嶋野 真里

1 単元名 文字の組み立て方と点画のつながり 「歴史」

2 本時の指導 (1/2)

(1) 目標

中と外の組み立て方に気を付けて、字形を整えて書くことができる。

<技能>

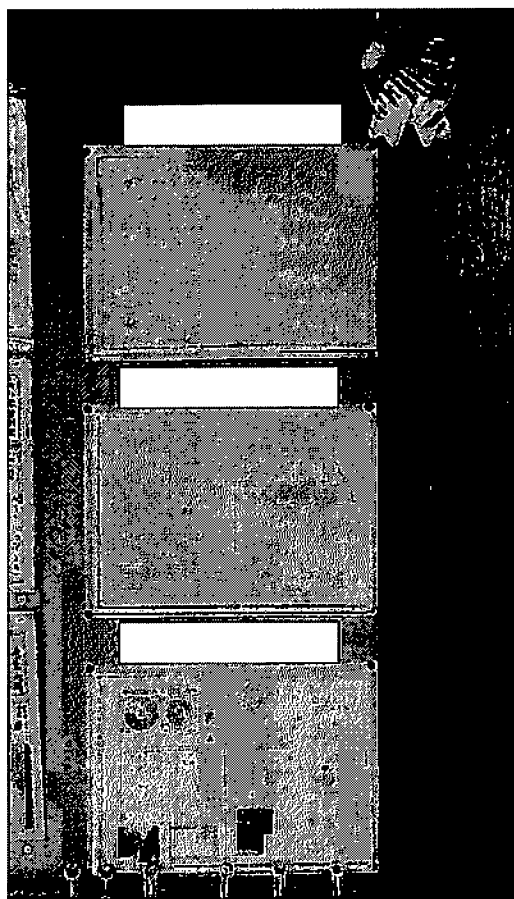
点画のつながりに気を付けて書くことができる。

<技能>

(2) 展開

時配	学習活動と活動内容	指導・支援 ○評価	資料
6	1 「歴史」の試し書きをする。	・手本を見ないで課題を書かせる。	課題の手本
5	2 試し書きと手本を比べ、基準確認をする。	・「歴史」の書くポイントを見つけさせる。	
2	3 学習問題を立てる。		
	中と外の組み立て方と、点画のつながりに気を付けて書こう。		
5	4 筆使いを確認する。	・教師の演示から、ポイントをつかませる。	水書板
15	5 練習をする。	・かご文字を作り、練習させる。	
10	6 「歴史」をまとめ書きし、試し書きと比べて評価する。	・自分の書いた作品を基準に沿って自己評価する。 ・友達に作品を見てもらい、基準に沿って相互評価をする。	
		○中と外の組み立て方や点画のつながりに気を付けて書くことができたか。 【技能(作品)】	
2	7 次時の予告をする。		

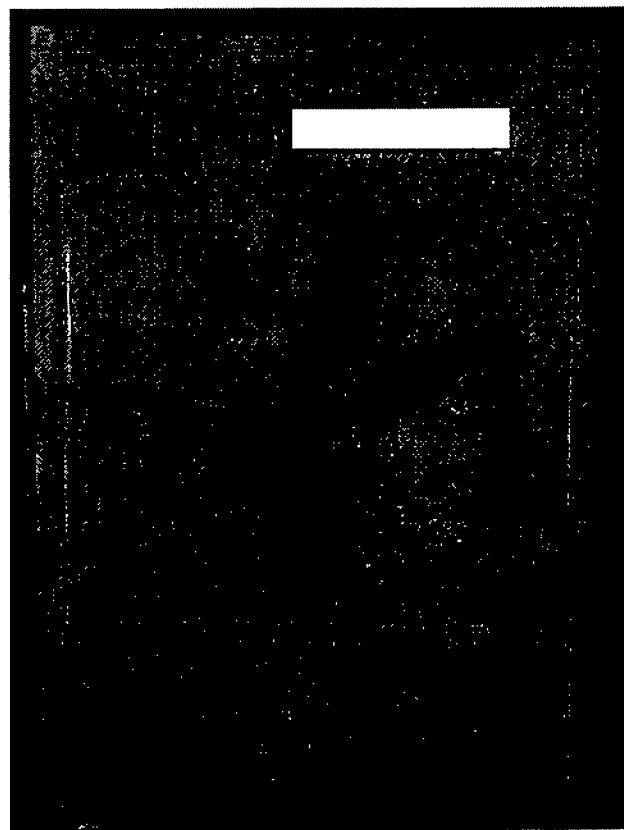
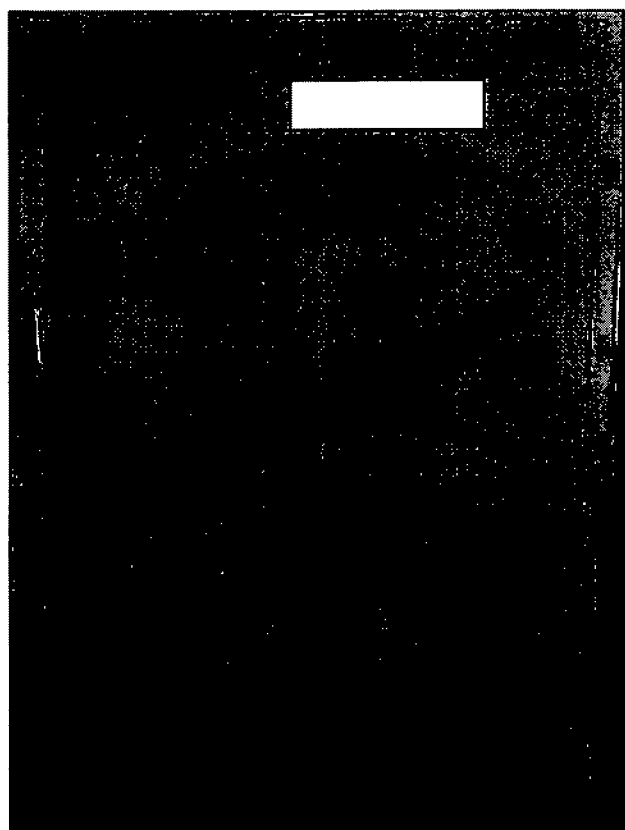
5 学年 金賞ノートの掲示



委員会活動の掲示物



2 学年児童の廊下掲示物



4年

5

(5年生)

[illegible]

6年 ※は

7

<加良部スタンダード>

書写（毛筆指導について）

（ア）目標

- ・ 基礎・基本を大切にし、文字の形を整えて正しく書くことができる児童の育成。

（イ）教師用の用具の場所

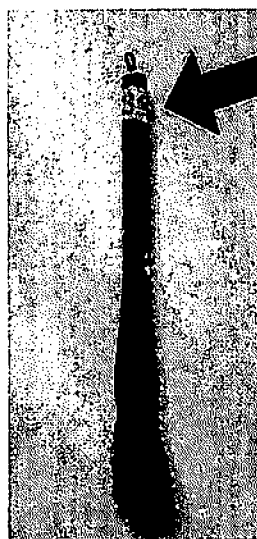
- ・ 水書板、水書板用の筆

⇒ 3, 4 年生は 2 階教材室 5, 6 年生は 3 階教材室

※ 水書板を使用する際は、個人の筆ではなく、学年に配当されている筆を使います。

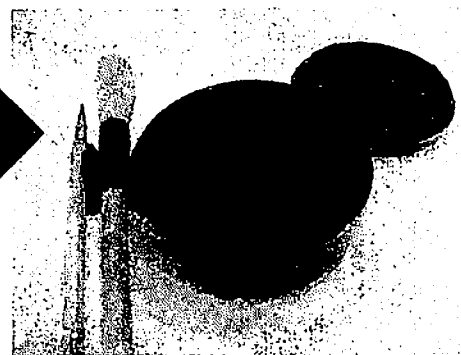
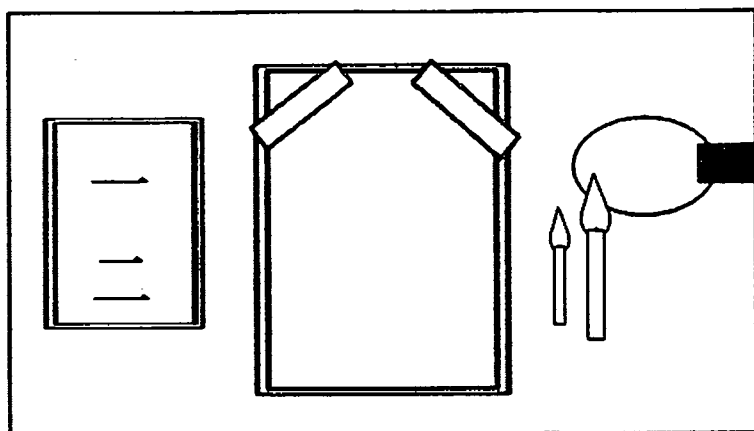


水書板は、白い面と赤い面がありますが、基本は白い面を使います。



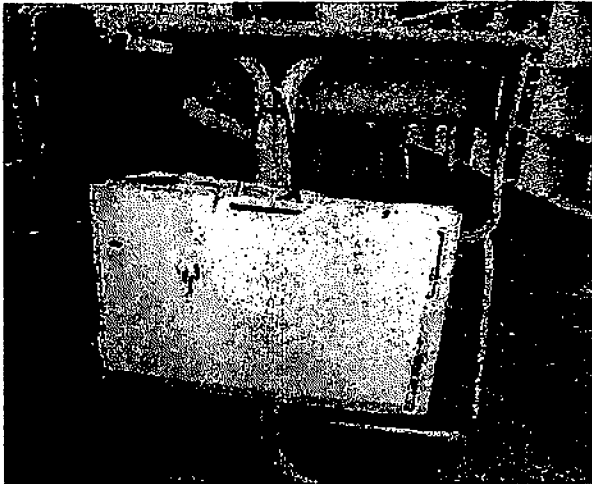
筆の上に、黄色のシールが貼ってあるものを使ってください。

（ウ）用具の準備の仕方について



※墨池のふたと墨汁は、書道バックにしまします。墨池が正しい向きで置かれているか確認してください。また、墨池の下には雑巾を敷きます。

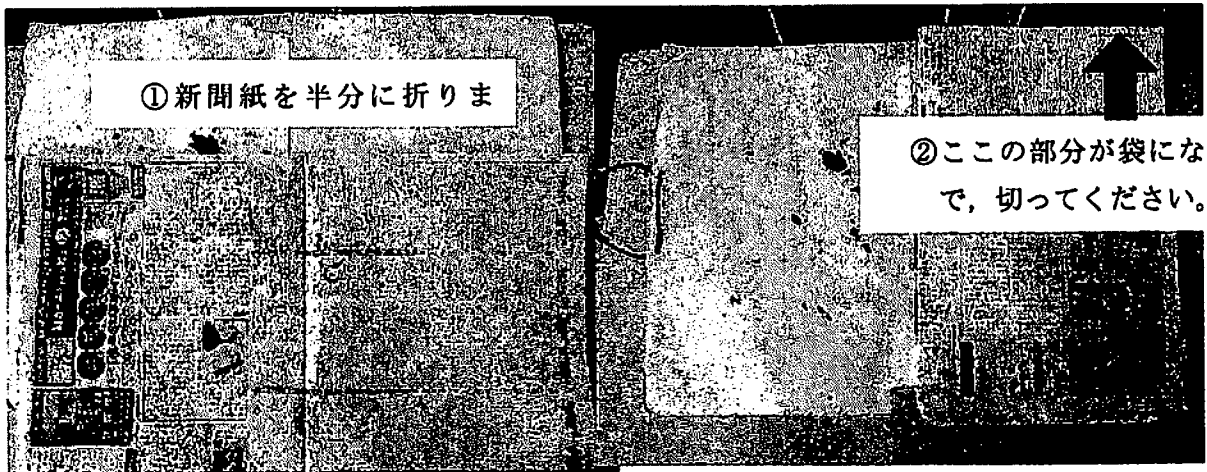
墨の量については、少なすぎてもかすれてしまうので、墨池の底が見えなくなる程度の量を入れさせてください。



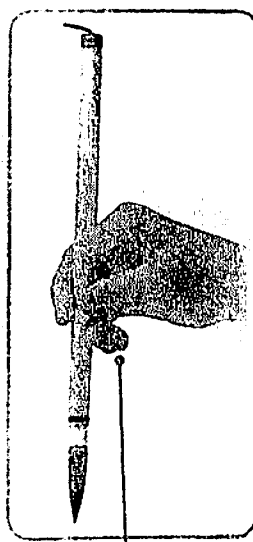
作品ばさみは、机に下げて使います。
基本、通路側に下げます。

<作り方>

板目用紙2枚をガムテープでつけ、ひもを通して作って下さい。中に入れる新聞紙は1日分程度とし、折って袋になった部分を切ります。6年生まで使用するので、板目用紙は集金にて購入をお願いします。綴りひもは個人で1本購入というわけにはいかないので、学級費で購入をお願いします。

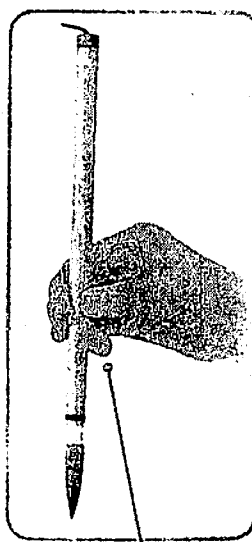


(工) 筆の持ち方と姿勢



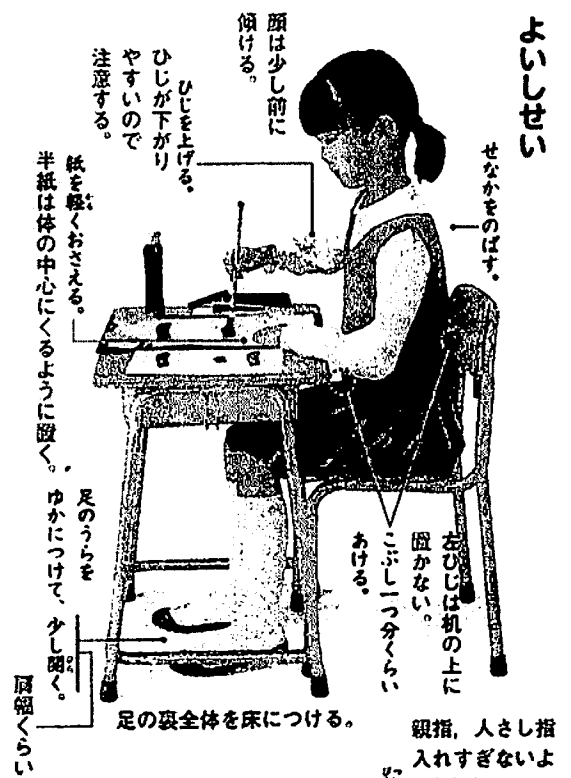
中指で支え、薬指と小指をそえる。

一本がけ(親指と、人さし指で持つ。)



薬指で支え、小指をそえる。

二本がけ(親指と、人さし指、中指で持つ。)



(オ) 学習の進め方

1. 試書 手本を配る前に、今までの学習を生かし自分の力で書く。
2. 基準決め 手本と自分の作品を見比べて、どこに注意して書いたらよいか基準を決める。
3. 学習のめあて 学習問題をたてる。
4. 練習 ポイントを確かめて、囲い文字で練習する。
⇒指導書の中に囲い文字が入っているので印刷して使って下さい。
5. 学習の振り返り 手本を見ずに書いた作品と消書で書いた作品を見比べ、友達と文字のよくなったところを話し合う。
6. まとめ 鉛筆でまとめ書きをする。その後、作品票を作品中央に貼って提出する。

(カ) 作品票について

のりづけ		
「おれ」と「はね」のふでづかいに気をつけて書こう。		
力	ふでを回さないでおれることができた。	
	ほ先をそろえながらゆっくりはねることができた。	
	全体のバランス	

強

力

- ・ ◎○△で評価させ、判子を押すかコメントを入れるなどして、教室に掲示をしてください。専科の先生は評価後、すぐに担任の先生に返却し、教室に掲示をしてもらってください。

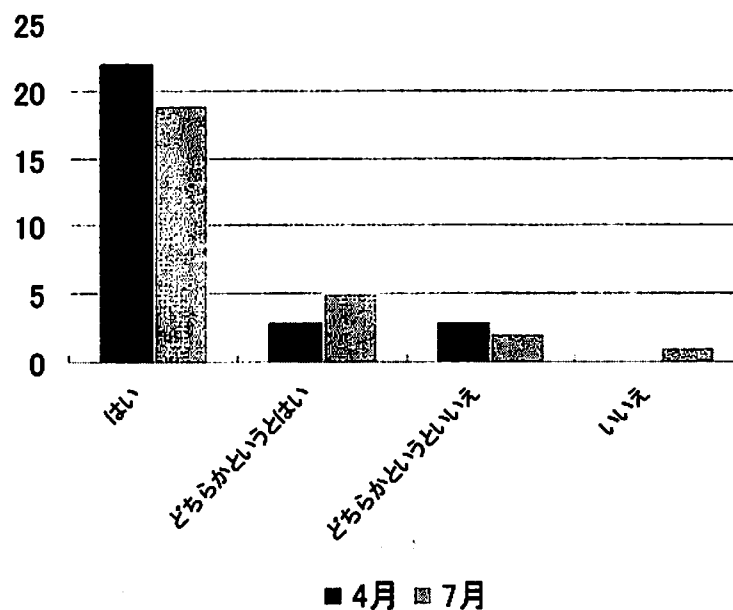
(キ) 用具の片付けの仕方について

- ・ 大筆、小筆、墨池に付いた墨は、練習した半紙などで拭き取ります。そして、大筆、墨池は家に帰ってから洗います。小筆は洗いません。
- ・ 原則持ち帰るものは、筆、墨池とします。しかし、教室に管理することが難しいという場合は、書写バックごと持ち帰らせてください。
- ・ 作品は、作品ばさみに入れたままにせず、適宜持ち帰らせるよう声かけをお願いします。

◎西中学校区での取り組み

<実態調査> 令和元年度公津小学校3年生 25名実施

①書写の授業は好きですか。



②そう答えた理由は何ですか。

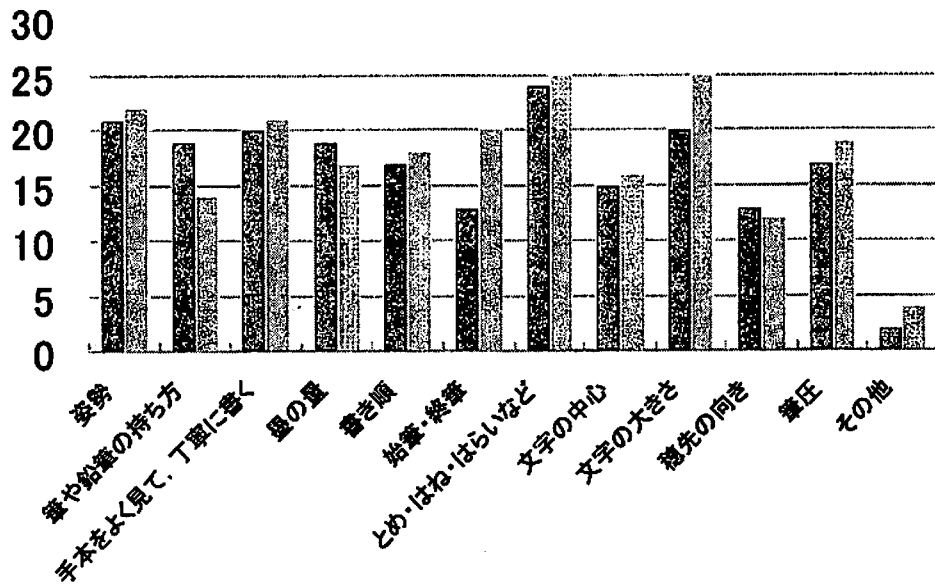
<4月>

- ・字を書くのが好き, 楽しいから (8)
- ・教頭先生のサインがもらえるから (2)
- ・字をきれいに書けるから (1)
- ・漢字を書けたことがあったから (1)
- ・字をいっぱい書けるから (1)
- ・集中してていねいに書けるから (1)
- ・なんかきらい (1)

<7月>

- ・字を書くこと, 習字がたのしいから (1 2)
- ・字が上手くなるから (4)
- ・書道がある日はすぐ1時間が終わるから (2)
- ・きれいに書けるとすっきりするから (1)
- ・習字を習いたくて学校で習えてうれしい (1)
- ・集中してていねいに書けるから (1)
- ・墨の調節が難しい (1)
- ・毛筆は消しゴムで消せないから (1)
- ・たまにうまく書けないときがある (1)
- ・片付けが大変 (1)

③文字を書く時、特に気を付けていることは何ですか。（複数回答可）



■ 4月 ■ 7月

※その他（4月）

- ・丁寧に書く
- ・筆を立てる
- ・準備をきちんとする

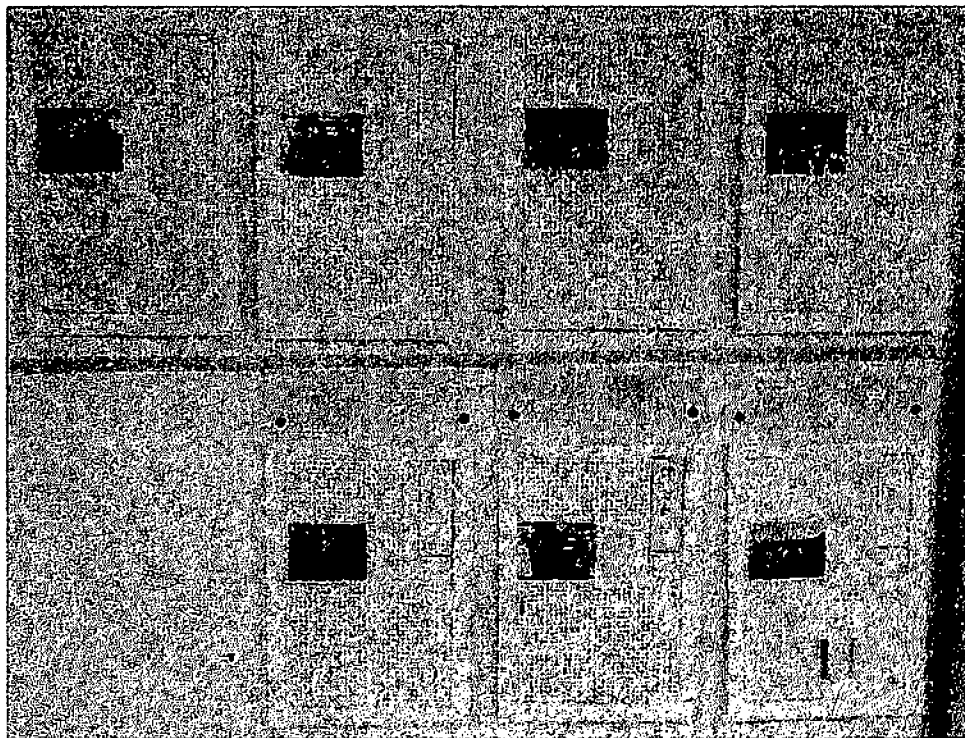
（7月）

- ・集中して書く
- ・縦画や横画に気を付ける
- ・紙の向き
- ・さっさと書かないようにする

④書写を学ぶことで役に立ったことはありますか。

- ・字がきれいになった（8）
- ・字が上手になった（7）
- ・とめ・はね・はらいができるようになった（3）
- ・いつでも字をきれいに書けるようになった（1）
- ・字をおぼえた（1）
- ・習字が嫌いだったけど好きになった（1）
- ・終筆と始筆ができるようになった（1）

校外学習後の個人新聞



生徒が書いた学級目標

